

0. はじめに

1. 「友情の双像」について

「友情の双像」の、大學による紹介文 「双像余情」
教育のリレー
若宮神社（長岡市長呂275-1）の位置

2. 作像の経緯

3. 長岡中央図書館美術センター開催の「大學展」のメモより

4. 日露戦争の前夜

5. メキシコ赴任中に大統領一族を救う

6. 武石貞松

補足 柏原康夫氏のブログページ、「堀口九萬一と大學」の紹介

尚、新潟県内で見ることのできる武石弘三郎の作品について、
別ファイル を作成しています。併せてお読みいただけたらと思います。
MfG_J_Sculpture_of_Takeishi_Kouzaburou_in_Niigata.pdf

0. はじめに

長岡は堀口家の故郷であり、久萬一の父親は戊辰戦争で戦死しています。東京で生まれた子息の大學も、母親の病死後、父親の外交官海外勤務に同行せず、幼少期から大学進学まで、長岡の祖母のもとで、現在の長岡駅から1kmの内に住まいで過ごしました。

久萬一の明治中期以降の外交官としての仕事、武石貞松の洪水に苦しめられ続けた猿橋川の下流域である中之島・長呂地区への貢献は、二人の生涯の友情とともに、もっと知られていいと思います。

1. 「友情の双像」について

長岡市の北部、中之島長呂の若宮社に建つ武石貞松と堀口久萬一の「友情の双像」の写真を掲げましたが、左の写真の銅像の作者は篤志家・貞松の弟の弘三郎、中央写真の像脇石碑の撰文は外交官・久萬一の子息・大學によるもので、四人とも長岡で学んだ人物です。うち三人は殿町にあった漢学の誠意塾で学び、その塾の創立者は、新政府軍越後戦線の参謀役であった勤王家・高橋竹之介。越後戦線の旗頭が、後に明治の最後の元勳となる西園寺公望。そして久萬一がロシアとの競り合いの中、外交手腕でアルゼンチンからの購入に成功した巡洋艦を、その直後に投入したのが対ロシア・日本海海戦。それに乗船し負傷したのが、海軍兵学校を卒業したての五十六。さらに貞松もスゴイ人物で、この四人に縁のある人物を手繰っていくことで、ある程度長岡を語れるような気になります。一番右の写真は若宮社の再建狛犬ですが、戦時金属供出されたブロンズ製狛犬の再建を、戦後に村人が語り合う中から出た「友情の双像」建立の話もステキです。この狛犬もイイ感じです。



「友情の双像」像

像脇に立つ大學による
撰文「双像余情」

若宮社の二代目
神狗のうち、阿形



長呂の若宮社



若宮社に向かって右側に立つ
「友情の双像」全景

「友情の双像」の、大學による紹介文 「双像余情」

双像余情

武石弘三郎子ハ双像和服貞松先生ノ末
弟 像及若宮御尊前神狗の製者也 我
大学子ハ双像洋服堀口九万一先生が長子
双像及コノ碑ノ撰文者タリ 二子ノ出
生大字長呂ト深シ ソノ芸術ニヨリ大学
トタダナラズ 果セル哉一子北越ノコノ
平和ナ豊穰境ヲ愛シ長ク里人ト親シ 里
人悦ビテ吉慶アルゴトニ二子ヲ招イテ歡
儘スヲ常トス依テ碑ノ成ル所以也

昭和三十七年六月

大字長呂里人一同ニ代リ大學之ヲ撰ス



この神狗が、素晴らしい。
姿も、おごそかささを感じる
美しさです。
50年以上、雨風に曝されて
いるブロンズ像のキレ
がシャープなのに、驚かされ
ます。

教育のリレー

堀口大學、そして武石弘三郎のふたりを、実際に世界に羽ばたかせたのは、長兄・武石貞松、父・堀口久萬一の友情による、教育支援です。貞松、久萬一のふたりは、明治14年 長岡殿町に尊王の高橋竹之介が作った誠意塾の同級生で寮の同室者でした。二人の友情は、九万一の子大學、武石の弟弘三郎へとつながって行きました。大學、そして弘三郎を、お互いの子息同様に気遣い、海外に学んで帰国の折りには住まいの工面をはじめ世に出るまで、支援し続けた話は、誠に心温まるものです。

若宮神社（長岡市長呂275-1）の位置

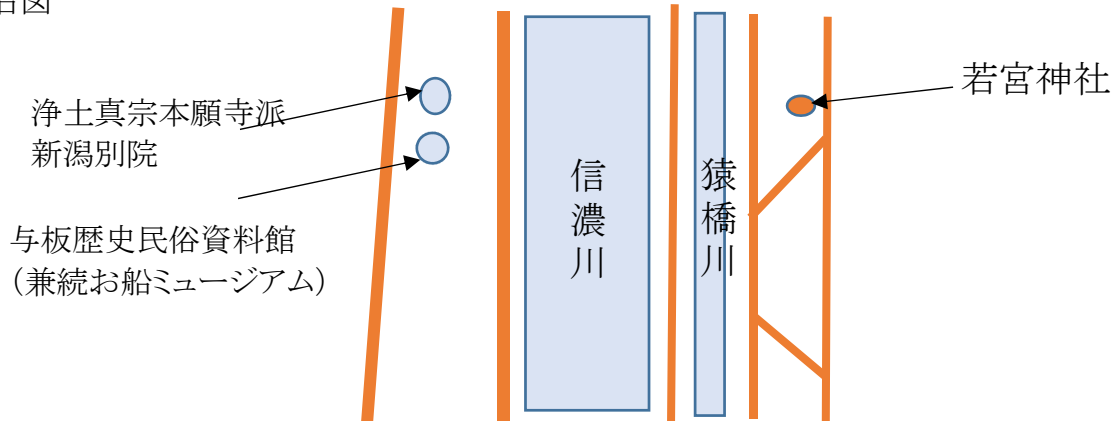


市の中心部より8号、灰島新田 交差点を左折 500mで高速をくぐり、
 (交差点の左前方にタイヤ天国、
 右前方にデイリーヤマザキ)
 500m進み、上通小学校を左に見る
 交差点(T)で、斜め右折

さらに500m進み、三叉路を左手前方向
 1500m進み、横山を左折
 1000mほど、ゆるやかな右カーブを進み、
 目的地。

猿橋川の右岸堤防の上の道からは、
 右図

至 与板橋 (約 1.5 km)



2. 作像の経緯

以下は、佐々木嘉朗、“彫塑家・武石弘三郎ノート”、北日本美術(制作)、1985 に書かれている、「友情の双像」像製作の経緯の概要です。

昭和二十二年(1947) 弘三郎 八十一歳

三月十九日。この日弘三郎は郷里長呂から上京してきた中島、武石喜代一、それに東京在住の同郷人佐藤らの訪問をうけた。中島と武石は古くから武石家と関係を有した人たちであり、佐藤は同じ長呂の出身者ながら、早くから上京して業に励み、下谷で手廉く時計の附属品を中心とした卸問屋を営む実業家でありました。

三人の用件は、昭和十年に弘三郎の手によって作られ、長呂の若宮神社に奉納された狛犬一対が、戦時供出によって失われたままとなっているのを、ぜひ復活させたい、という依頼で、佐藤から寄進を表明された二人が、仲介人として佐藤をまず弘三郎に引合わせるために訪れたのです。

郷人の熱意に打たれた弘三郎は、無報酬で製作に当たる旨を述べ、またこの件に堀口大学の撰文を請いたい、という三人の希望にも快よく、大學へ伝える旨、約束しました。

昭和二十三年(1948) 弘三郎 八十二歳

狛犬製作の打合わせもあり、この年初から、弘三郎はしばしば葉山の堀口邸に足を運び、大学もまた鎌倉を訪うという、両者の間に頻繁な往来が取交わされました。

十月八日。大学が、書き上げた撰文を携えて鎌倉を訪ね、弘三郎にその披閱を請いました。撰文は、狛犬が佐藤通文の篤志によって寄進された旨を述べたもので、完成した狛犬の台座に添えられものです。

十月半ば、出来上がった狛犬が長呂に向け発送され、狛犬の除幕式で久し振りに関係者一同が寄り集まったことを機縁として、郷人のなかから、堀口九寓一と武石貞松の生涯途絶えることのなかった交情を記念する像を製作したいという議が起こります。中心となって奔走につとめたのは、狛犬の際と同じく中島・武石・佐藤の三人。弘三郎はこれに応じて、以後写真をはじめ関係資料の収集につとめるとともに、像のコンポジションの考案に腐心することになります。

昭和二十五年(1950) 弘三郎 八十四歳

四月五日。双像の建立が予定されている若宮神社境内の敷地を、実際に確認するため、前日の四日に鎌倉を発った弘三郎は、前年に引続いて長呂を訪れ、中島らと協議を遂げたあと午後には早くも帰京の途につきました。

この時点で、アトリエにおける創作もきわめて順調に進んでいたのですか、それにしても八十四歳の老翁の気力ははなはだ職んで、寸刻も忽がせにはしなかったようです。

四月二十三日。堀口大学夫妻が鎌倉を訪れ、「友情の双像」の原型に接しました。この日、大学もまた次のような詩稿を弘三郎に披露しました。詩は双像に添えられるのである。

” 長呂なる／ここ若宮の神域に／おごそかな額ぶちの／中にあられる おふたりよ／若くあられる おふたり

よ／風にはためく のぼりの音に／お目が さめましたか／そしてびっくりなさいましたか／昔のままに

温かく／手を握り合い／肩を寄せ／長呂なる ここ若宮の／昔のまま
九月一日。「友情の双像」の除幕式が、折柄の好天にも恵まれ、若宮神社の境内で盛大に挙行されました。

前日、東京を発った弘三郎夫妻を中心に、堀口大学夫妻、大学の妹岩子、それに両家の親縁者、九高一と貞松の生前をよく知る古い郷人を加えた参列者たちは、互いに掌を堅く握り交わした像形を前にして、交々在りし日の兩人の面影を偲びました。

3. 長岡中央図書館美術センター開催の「大學展」のメモより

以下は、2017年12月 長岡中央図書館美術センターで開催の「大學展」の久萬一コーナーを見学した、私のメモに基づいています。

(1) 誠意塾入塾時

外交官試験勉強 資治通鑑 活字本全百冊が発刊されたのを購入し、その勉強のため誠意塾に入塾し、むさぼりよんだという。7-80人が全員寄宿し、学問三か条のもと、学んでいた。

門外出入必要稟告

飲食物品現金購求

書信贈答総経験査

(2)再婚したスチナの死

昭和13年(1938)73才、スチナ夫人死去

「悲しむべき哉、このよき夫人、

七時半納棺、美貌女神の如し」

～ スチナさんは、大學が学業を終えた後、ベルギーにてしごとをしていた父の元にいきます。

そこで大学にフランス語を教えたのが、スチナさんです。久萬一の外交官としての仕事も、外交官夫人スチナさんの家庭人としての人脈が大きく寄与したようです。いたの存在なくして、久萬一の外交官としての歴史に残る業績はなかったと思います。

まさに、スチナさんの存在なくして、久萬一の外交官としての歴史に残る業績はなかったと思います。

また、大學の、フランス詩人としての大成も、なかったかも知れないと思わざるを得ません。

(3) 学んだ『資治通鑑』、『大日本史』

資治通鑑

中国北宋の司馬光が、1065年(治平2年)の英宗の詔により編纂した、編年体の歴史書。

『温公通鑑』『涑水通鑑』ともいう。1084年(元豊7年)の成立。全294巻。

もとは『通志』とあったが、神宗により『資治通鑑』と改名された。

収録範囲は、紀元前403年(周の威烈王23年)の韓・魏・趙の自立による戦国時代の始まりから、1959年(後周世宗の顯徳6年)の北宋建国の前年に至るまでの1362年間としている。

この書は王朝時代には司馬光の名と相まって、高い評価が与えられてきた。また後述のように実際の政治を行う上での参考に供すべき書として作られたこともあり、『貞観政要』などと

並んで代表的な帝王学の書とされてきた。また近代以後も、司馬光当時の史料で既に

散逸したものが少なくないため、有力な史料と目されている。

司馬光は『資治通鑑』の史体をえらぶ時、あえて当時全盛であった『史記』『漢書』以来の正史の形式である紀伝体を取らず、編年体とした。これは彼が儒学の經典である『春秋』に倣うことを目的としたもので、極めて名教的色彩に富んだ選択であった。

本書は、はじめは単に「通志」（南宋の鄭樵による『通志』は別のもの）と呼ばれ、全8巻として1064年（治平元年）に英宗に上呈された。その後、神宗の代になって「政治上の参考に資するもの（治に資し通じて鑑みる）」という意味合いをもたせて、『資治通鑑』という名を賜った。

内容的には、正史に記載されていない、322種にのぼる豊富な資料に基づいて考証を加えている。とりわけ、隋唐五代の部分は、欧陽脩の『新唐書』編纂以降に収集された資料を駆使しているため、正史としての『旧唐書』や『新唐書』、『旧五代史』・『新五代史』と同様に、高い史料価値を持っている。

本書の作製方法としては、可能な限りの資料を収集し、それを年月日に整理し直して一つの一大資料集（長編とも呼ばれた）を造り上げるという第一段階。次いでその大資料集を下に、司馬光が治世に役立つもののみを採り取り、『資治通鑑』として完成させるという第二段階があった。

本書が以後の中国史学界に与えた影響は非常に大きく、同じく編年体の歴史書や、編年体の欠点を補うものとしての紀事本末体の歴史書が相次いで編纂された。『通鑑記事本末』『続資治通鑑長編』『続資治通鑑』『続資治通鑑長編拾補』など、後続の歴史書にはそのまま『資治通鑑』の名を織り込んだものも多く出ている。

『大日本史』

日本の歴史書。江戸時代に御三家のひとつである水戸徳川家当主徳川光圀によって開始され、光圀死後も水戸藩の事業として二百数十年継続し、明治時代に完成した。

神武天皇から後小松天皇まで（厳密には南北朝が統一された1392年（元中9年/明德3年）までを区切りとする）の百代の帝王の治世を扱う。紀伝体の史書で、本紀（帝王）73巻、列伝（后妃・皇子・皇女を最初に置き、群臣はほぼ年代順に配列、時に逆臣伝・孝子伝といった分類も見られる）170巻、志・表154巻、全397巻226冊（目録5巻）。

携わった学者たちは水戸学派と呼ばれた。

『大日本史』は光圀死後の1715年（正徳5年）、藩主徳川綱條による命名で、同時代には『本朝史記』や『国史』『倭史』と呼ばれている。質の高い漢文体で書かれ、記事には出典を明らかにし、考証にも気を配っている。

4. 日露戦争の前夜

日清戦争後、日増しに緊張の度合いを深めるロシアとの関係に備え、日本海軍は10年間で戦艦6隻、一等巡洋艦6隻を主力とする巨大海軍を作り上げた。

しかし、バルト海にいるロシア本国艦隊と極東のロシア旅順艦隊が一体になれば、日本海軍は未だ戦力において劣っていた。

まず、チリがイギリスのアームストロング社に発注したコンステイトゥション級戦艦を、日本とロシアが購入を争ったが、ロシアに売却されそうになったので、日本の同盟国のイギリスがやむなく購入したという前史があった。これがスウィフトシュア級戦艦である。

1903年(明治36年)、アルゼンチンの発注によりイタリアはアンサルルド社ジェノバ造船所で建造中だったジュゼッペ・ガリバルディ級装甲巡洋艦「リヴァダヴィア」と「モレノ」に日本の同盟国の英国が目をつけ、内々に日本に購入を促してきた。この2隻は、アルゼンチンがチリとの緊張関係にある時期に発注したが、その後両国が和解したため存在が宙に浮いている状態であった。ロシアもこれに気がつき、日露両国で購入合戦となったが、最後は日本が思い切った価格を提示したため、日露開戦直前に日本に売却された。

～追記 このアルゼンチンからの購入交渉に貢献したのが、当時駐ブラジル外交官であった堀口久萬一である。～

イタリアから日本へ回航する際には、開戦となれば速やかに攻撃するために、ロシア艦隊が追尾してきた。しかし回航を請け負ったアームストロング社員を護衛する名目で英国艦隊が支援したこともあり、無事横須賀港へ着いた。この時の回航責任者は、鈴木貫太郎海軍中佐であった。

「リヴァダヴィア」は春日、「モレノ」は日進と命名され、第1艦隊に属し旅順港閉塞作戦に参加した。特に春日の主砲である「アームストロング 25.4cm(40口径)砲」は連合艦隊の中で最も射程が長く、旅順口攻撃に投入され旅順要塞の要塞砲の射程外から楽々と旅順港内に撃ち込むことが出来たため、港に籠っているロシア旅順艦隊に一定の心理的影響を与えた。

春日と日進がともに参加した日本海海戦の大勝利は、この2隻を売却したアルゼンチン政府や海軍も喜ばせた。これが縁となり、毎年5月27日の旧海軍記念日に開催される日本海海戦記念式典には、英国海軍武官とともにアルゼンチン海軍武官も招かれるのが通例となっている。

<http://ningyocho.blogspot.jp/2012/04/cut2.html>

一九〇三年十二月二十日に日本と同盟関係にある在日イギリス公使館からアドバイスを受けた小村外務大臣は在ブラジル日本公使館に「アルゼンチンと装甲巡洋艦2隻の購入交渉を開始せよ」と訓令電報を打った。当時の日本はアルゼンチンに領事館がなかったので近隣のブラジル領事館に電報を打ったのである。

一方でチリとの紛争を解決して同国と良好な関係にあったイギリスはアルゼンチンに対して両艦を日本に譲渡するように示唆した。また小村は同時に林董在英公使に対し艦船購入の支払いのための資金150万ポンドが横浜正金銀行ロンドン支店にあるかどうかを問い合わせた。

ロシアとの競合上アルゼンチンへの支払いはキャッシュが条件だったのである。キャッシュとは英国ポンドであり、これはゴールドでもあった。林は横浜正金銀行山川ロンドン支店長に問い合わせ、在外正貨である日本政府保有の支払い可能なポンドの残高を確認した。この当時日本銀行にはロンドン支店はなく横浜正金銀行が代理店をしていたのである。

十二月二十五日にはブラジルにいた臨時代理公使(詩人堀口大学の父)がアルゼンチンのフリオ・ロカ大統領と会見。アルゼンチンは両艦を日本に譲渡することを約束してくれたのだった。これを受けて海軍は早速フランス公使館付武官であった竹内平太郎大佐とベルリンに留学中であった鈴木貫太郎中佐に極秘にジェノバのアンサルド社へ向かうように指示を出し、2人は「モレノ」=「日進」、「リバダビア」=「春日」の回航委員に任命された。彼ら2人がイタリアから日本まで両艦を移送する責任者となったのである。鈴木貫太郎は後に太平洋戦争終結時の第四十二代内閣総理大臣となる。

装甲巡洋艦 春日

竣工：1904年(イタリア) 排水量：7628トン 最大速力：20.75ノット

主砲：20.3センチ×2門

25.4センチ×1門

副砲 速射砲：7.6センチ×6門

イタリアで建造中のアルゼンチン軍艦「リバダビア」を購入。日露開戦直後に回航され、当初は第三艦隊第五戦隊に編入されたが、初瀬、八島の沈没後に第一艦隊第一戦隊へ編入。主力戦艦と共に黄海海戦、日本海海戦に参戦した。第一次大戦ではインド洋、南シナ海での作戦に従事。その後、横須賀で練習艦として使われていたが、昭和20年7月に米軍の爆撃を受け大破着底。昭和23年に引き上げられて解体された。

艦名の「春日」は、奈良県の春日山から取られた。なお、春日山原始林は1998年に世界遺産に指定されている。

装甲巡洋艦 日進

竣工：1904年(イタリア) 排水量：7700トン 最大速力：20.75ノット

主砲：20.3センチ×4門 副砲：15.2センチ×10門

春日の姉妹艦。イタリアで建造中のアルゼンチン軍艦「マリアノ・モレノ」を購入。

春日と共に日露開戦直後に回航され、当初は第三艦隊第五戦隊へ、後に第一艦隊第一戦隊へ編入された。主力戦艦と共に黄海海戦、日本海海戦に参戦。日本海海戦では当時少尉候補生であった山本五十六が乗艦しており、艦上で負傷している。

～山本五十六(当時は高野姓)が乗り組み、海戦中に砲身爆発(敵弾によっても砲門内爆発ともいわれている)により、左手人差し指と中指を失っている。～

第一次大戦では特務艦隊に所属し、南太平洋や地中海の船団護衛に従事。昭和10年、大和級戦艦の砲弾実験中に事故で浸水転覆し、その後解体された。

艦名の「日進」は、「日々に進歩すること」を意味する。幕末に佐賀藩が購入し、台湾征討や西南戦争に参加した日本初の巡洋艦「日進丸」と同名。

5. メキシコ赴任中に大統領一族を救う

2017年12月12日づけの毎日新聞に、「メキシコ赴任中大統領一族救う」の記事が掲載されました。 その一部を抜粋して説明します。

詩人の堀口大学の父で長岡出身の外交官、堀口九萬一（1865-1945年）が100年以上前にメキシコ大統領一族を救った縁にちなんで10日、カルロス・アルマーダ駐日メキシコ大使が長岡市を訪れた。同市立中央図書館で開催された「詩人 堀口大学と長岡展」で九萬一の遺品などを観覧し、関係者と交流するなどして九萬一の功績をたたえた。

九萬一はメキシコ臨時代理公使に赴任中の1913年に軍事クーデターに遭遇。殺害されたフランシスコ・マデロ大統領の一族20人以上が交のあった日本公使館に逃げ込んだ。

人道的立場から一族を保護し、クーデター勢力から守ったことで、メキシコではサムライ外交官」と慕われている。上院議会が一昨年、九萬一を模範的な生き方としてたたえ、日本への感謝を示すため議会内に記念プレートを設置。自国民以外の上院議会での顕彰は九萬一が初めてという。

この日一緒に訪れた マラ・マデロ大使夫人は、マデロ大統領の兄弟の孫にもあたる。

参をしており、お返しに同市稽古町の長興寺にある堀口家の墓も訪ねて家族で献花した。

....

6. 武石貞松

(1) 郷土への貢献

中之島・長呂は猿橋川の下流域にあり、以前より洪水被害の絶えな
いところであった。その土地で、長年、治水、農地整備、殖産、子弟
教育の先頭に立って努めた。

(2) 山田寒山・篆刻文献より

武石貞松(1868-1931)は、南蒲原郡中之島村大字長呂の庄家に生ま
れた漢詩人。長岡の誠意塾に学び、師の高橋竹介の信任厚く、のち地
元に戻り自邸にて漢詩塾・修斉館を開き地域の教育に尽力した。
文人像以外にも地域振興に努め、農業整備・架橋・信用組合創立等社
貢献度が高く徳望祝された。

『南蒲原郡先賢伝』(大正12年刊)は名著として読まれる。当時の越人
には詩歌集を自刊する気風が強く、その多くに貞松の序跋を見出す
ことから、その人物の位置付が推知されよう。

(3) 中之島コミセンの展示より (2016年11月01日-)

武石貞松は、長呂の理正(庄家)武石弘六の長男として生まれる。
頭脳明晰、長岡の誠意塾に学び、若くして塾頭に選ばれた。

越後漢詩三傑。新聞「東北日報」で漢詩撰者。

ちなみに同紙の同時期の俳句撰者は、会津八一。

水田区画整理事業「島田他三ヶ字耕地整理」に従事。

ツツガムシ対策で、名古屋医大の林博士を招く。

「済生利生」、地域のため私費を投入。

信濃川流域の荒地に柳を植樹し、柳行李特産の道を開くなど、

「殖産・農業経済の振興」に貢献。

(4) 越後漢詩三傑

「武石貞松」の名は「曾津八一伝」にも見られるので、次に紹介する「先生
を増村度次に紹介したのは、越後の漢詩人武石貞松であった。先生若干
にして越後俳壇に活躍し『東北日報』の俳句欄を担当していた時、武石貞
松は同誌漢詩欄を受け持っていて知り合った仲である。当時の『東北日
報』は大竹貫一、萩野左門が経営に当って居た」とあり。

貞松は坂口五峰、増村度次と共に近代越後漢詩三傑の一人であって、
五峰の詩が政治的色彩強く、朴斎が儒学的傾向に流れているのに対し

て、最も純粹に文學的香氣に富んだ詩人であった。貞松が増村度次の英語教員の需めに応じ旧知の先生を推薦したのである」とあり、有恒学舎への採用の詳細な経緯を示している。

会津八一を有恒学舎の英語教師に推薦したとされる武石貞松。
「会津八一と思師平野秀吉_武石貞松は近代越後漢詩三傑.pdf」

(5) 眞照寺 高橋竹之助の墓石の後ろに、武石貞松謹撰の石碑

長岡市千手に、眞宗大谷派の寺院、眞照寺があります。
明治十二年、殿町に誠意塾を創立して多くの門人を輩出し、また大河津分水建設を提言したことで知られる高橋竹之助のお墓があります。その墓石の後ろに、武石貞松謹撰の石碑があります。

補足 柏原康夫氏のブログページ、「堀口九萬一と大學」の紹介

<http://monsieurk.exblog.jp/21635299/> に、NHK・日本放送協会の解説委員を勤められたムッシュ氏のブログページがあります
たいへん広範囲、かつ詳細な論考です。ブログの筆者は、そのブログ「堀口九萬一と大學」の冒頭に、ご自身を明らかにされておられますように、『敗れし國の秋のはて 評伝 堀口九萬一』(左右社、2008)の著者である柏原康夫氏です。

ご一読をお勧めします。